埼玉教育新聞

第2214号
編集兼発行人
埼玉県教職員組合
情報宣伝部
さいたま市浦和区高砂
3－12－24教育会館内
電話048（824）2511
（一部　10円）
週刊毎週水曜日発行
（組合員の購読料は組合費に含む）

▽埼教組へメール

▽埼教組HP

初夢は早々に記憶の彼方に消えてしまったので、寅年に思いを馳せてみようと思います。

２０１０年の寅年。何をしていたのか思い出してみると、これまた初夢同様にあまり記憶がありません。もう一度よくよく考えてみると、実は人生のターニングポイントともいえる大きな出来事のある年でした。

まず一つ目は結婚式です。皆さんもご存知の通り、結婚式の準備は非常に大変です。直前のすったもんだや周りを巻き込んだ話し合いも、今ではすっかりいい思い出になりました。

そして二つ目は、息子を授かったことです。息子は翌年の２０１１年に生まれ、今年はもう11歳になります。正直、息子が生まれてからの記憶は、自分のものというよりも、家族での思い出となっており、なかなか自らの思い出が浮かばないほどです。

２０２２年の寅年。駆け足で過ぎる12年でしたが、次の寅年を迎えた時すぐに「こんなことがあった」「あんなことがあった」と思い出せる、そんな実りある1年になることを願っています。

埼葛支部蓮田単組

教師になって三七年、組合員に入って三七年、気がつけば還暦を迎える年が明け、今年は六回目の年男。自分としては坦々と日々の仕事をしているつもりなので、今年の夢と言っても後進のために少しでも働きやすい環境をつくりたいということくらいしか浮かばない。加えて、大きな曲がり角にさしかかっている埼教組秩父支部についても、今後につながる道筋をどうにかつけたい。…と柄にもなくまじめなことをつぶやいてみたが、今年も結局いつもと変わらない日々が繰り返されるだけのような気がする。それでも人生の節目となる年なので、何か普段はできないことをしてみたい気がするのもまた事実。例えば、まだ行ったことのない土地を訪ね、そこの名物を味わうとか。そんな些細な夢すらも阻もうとするかのごとき、何とかウィルスがただただ恨めしい。一年ちょっと後には自分の退職を祝う会を開いてもらい、後輩と気持ちよく杯を酌み交わせることを願うばかり。

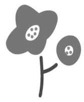
秩父支部

初昨年亡くなった祖父が、にこやかに立っていたのが今年の初夢でした。そういえば祖父が大切にしていた言葉は「温故知新」、そして今年度赴任したばかりの小学校の記念碑にもなんと同じ文字が。なんだか縁を感じます。

コロナ禍以前は、仲間と集まって味噌作りをしていました。みそは思いの外簡単にできて、それでいて買ったものより数倍美味しいです。私の実家も含めて、多くの家庭が手間と引き換えにみそを買う選択をしていますが、私はみそ作りが好きです。昨年は集まれず、一人で作ることとなりましたが、それでも完成した時の美味しさや、家族や友人の笑顔を想像しながら作るのはとても贅沢で幸せな時間です。私は、親が手放した「手間暇かけて味噌を作る」という古いやり方に出会って、新しい知見を得ました。

温故知新を信条に、寅(虎)のように爪を地に立てしっかりと足をつけて生きる年にしたいと思います。

西部支部所沢単組



新年の抱負は「生徒の気持ちに寄り添うことのできる教員になる」ことです。昨年は新採用職員として初めて担任を持ち、希望と不安の中生徒たちと触れ合うこととなりました。しかし、私のクラスでは不登校の生徒がでたりいじめが起こってしまったりと、私が生徒の気持ちに寄り添うことができていなかったことにとてもショックを受けました。しかし、そんなときに同僚の教員がかけてくれた、「そう思うならこの先同じことを繰り返さないように責任をもってこの仕事と向き合え」といった言葉や、「裏を返せば誰かの人生を救うこともできる」という言葉にとても救われました。新年になったので、気持ちを切り替えて、これまでの自分と向き合い、様々なやり方で生徒と触れ合っていきたいと考えています。寅年は“トライの年”と聞きます。何事にも挑戦して、体験して、またこの一年で少しずつ成長していきたいと思います

北足立南支部川口単組道訳

不採択でも前進の兆しも…
県議会文教委員会傍聴記

北村純一

１２月１６日、埼玉県議会文教委員会を傍聴しました。

委員会では、３万８１１８人が賛同する「ゆきとどいた教育をすすめる請願」を不採択にしましたが、例年とは異なる文教委員会に見えました。

民主フォーラムの議員が「財政上の観点から直ちに賛成しかねる」としながらも趣旨採択を提案し、共産党の議員も賛成しました。残念ながら賛成者は二人のみで少数でした。その後の討論で、無所属県民会議の議員が「請願を理解はできるが、限られた予算で残念ではあるが不採択」と発言します。自民党の議員は「必要な取り組みはすでに行っている」としながらも、「生活困窮世帯には引き続く必要な措置を」と述べるなど教育施策の充実を県教委に求めていました。

教育予算を拡充し、保護者負担の軽減、教職員の増員や少人数学級の充実、特別支援学校の増設の私たちの願いは、議会でも正面から否定できない正当な要求と認識されていると感じました。

県議会への請願は不採択となってしまいましたが、「すべての子どもたちにゆきとどいた教育を」の精神は、教育長が「臨時的任用教員数が多いことから、本採用教員を増やしていく必要がある」「（特別支援学校の）新設校の整備を含め高校内分校の設置や校舎の増築など、特別支援学校の過密解消に取り組む」という前進的答弁に成果の兆しが表れていると感じました。

けやき

暮れに地元小学校のたよりが回覧されてきた。そこには12月をもって退職された教員の報告があり、校長は「教職員一丸となって今年度残り3か月の教育活動を引き続き充実させるべく更に団結しがんばってまいります」と記されていた。▼しかしこれは残った職員に負担増を求め代員補充の努力と任務を放棄すると宣言した事になる。校長は情に訴え勇ましく決意を述べたつもりであろうが▼埼玉では小中の今年度11月時点の未配置・未補充は、前年度同月の45％増の１４４人だ。「教育の穴」が一層大きくなった。県議会や地公労交渉でも取り上げられ県教育長は「対策検討チームを立ち上げ教育局をあげて横断的に対策を検討する。本採用教員の採用数拡大等を検討する」と回答した▼声をあげ、要求に束ね、交渉し、回答を引き出す。今年も組合の出番の一年になることは間違いない。「あなたも埼教組へ、全教共済へ」の一年にしましょう。（お）

教育文化 研究所コーナー

季刊誌97（冬）号をお楽しみに

昨年12月4日に学校統廃合を考える埼玉交流集会が開かれ、ズーム参加を含め100余名が参加しました。三重県や都内からの参加もあり、切実でリアルな報告に学ぶことが多かったです。今号で再度、埼玉の現状とその背景を論考で取り上げています。

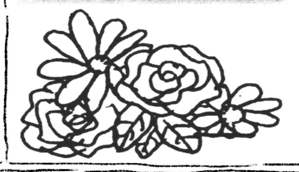
子どもの成長・発達に思いが至らず、現場の声が届かない「GIGAスクール構想」「教育のICT化」について「さいたまここに人あり」（吉田雅人さん）「地域から」で（金井裕子さん）教育現場の現状と問題点を指摘しています。

特集「主権者を育てる」の3つの教育実践は“今こそ平和、憲法学習を”の願いがひしひしと感じられます。声を上げることが当たり前の世の中をつくるために教育の役割が問われているのではないでしょうか。

2月5日（土）14時コーププラザ浦和にて第23回埼玉・協同して子育てをすすめる交流会が催されます。「虐待が残した心の傷跡」をテーマに髙橋亜美さんが講演。彼女は虐待を受けた人々のアフターケアの専門家でNHK「仕事の流儀」で紹介され、大きな反響をよびました。ぜひご参加下さい。

昨年6月の理事会で当研究所の所長が山口和孝さんから馬場久志さんに交代することが承認されました。紙上をかりてお知らせします。

（事務局長　山内芳衛）



埼教組組合員とその家族の限定として「ムーミンバレーパーク」（埼玉県飯能市）を特別優待価格で利用できるように団体契約を交わしました。

優待価格でチケットを購入するには、専用サイトへアクセスしパスワードを入力する必要があります。組合員のページにて詳しい購入方法やパスワードを載せていますので、ぜひご活用ください！

現勢回復の実現を！ ～結果に繋げる行動で～

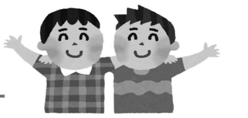
先日行われた支部・単組・専門部代表者会議において埼教組の「春闘」と第3期加入促進月間の方針提起を行いました。現勢回復まで残り19名、3か年計画における今年度新規加入目標達成まで残り30名となりました。今年度の埼教組の「春闘」大きな柱は3点です。①なかまを増やす「組織拡大／共済拡大」②なかまをつなぐ「組織強化」③全労連「150万対話」のとりくみです。

埼教組の「見える化」と「対話」で頼りになる埼教組の姿をアピールし、組織拡大行動に旺盛にとりくみます。対象世代に合わせた情報発信と対話行動を行うことが重要です。とりわけSNS世代の青年世代に向けた情報発信や対話は分会訪問今後の組織拡大に大きな影響をもたらします。共済では、今年度掲げた加入目標160件の実現に向け、新たにYouTubeで動画配信も行っています。こうしたものも対話活動に活用しながら一人でも多くの加入者を組合・共済ともに迎えましょう。

今回、第3期加入促進月間の方針では、これまで行ってきた「全県一斉対話ウィーク」のとりくみを「つながりウィーク」と名称を変え、そのとりくみ内容も一部変更しました。

これまでのとりくみと同時に組合員同士のつながりにも目を向けたとりくみの提起です。とりわけオープンチャットへの参加率を当面の6割とし、組合員を一人ぼっちにしない、つながりの強化を図ります。第3期加入促進月間の期間は1月24日（月）から2月28日（月）、「つながるウィーク」は1月31日（月）から2月6日（日）までの1週間です。今年度最後の埼教組全体での組織拡大・強化行動です。各級段階でできることを着実に行い、なかまを「ふやす」、なかまと「つながる」とりくみを進め現勢回復を実現しましょう。

特集　私たちの「３か年計画」



さいたま市支部　書記長　kさん

さいたま市教組は、昨年度組合員数から５人増、特に7月から12月まで毎月の拡大を達成しています。執行委員会では、毎回拡大対象者を明記するとともに、情宣や学習会のチラシを送り、はたらき続けることを大切にしています。パワハラ相談に丁寧な対応をしてきたことも拡大の大きな鍵でした。話を聞き、書記局で市教委へ本人と一緒に行って今後の対応について強く要望します。執拗な管理職のパワハラには、市教委と連携を図りながら本人を励ましているという事案もあります。また、組合が作成した情宣や抗議書を読んで加入を決意した若者もいて、こちらが励まされる思いです。

そして学習会は拡大の機会だと位置づけています。秋に行った市教組女性部主催の学習会には、未組の方が１３人参加しました。女性部常任が粘り強く声かけをした成果です。学習会では全教青年部作成の動画で組合の役割を伝え、共済加入も訴えました。
また「繋がろうプロジェクト」と題し、組合員を独りぼっちにしないため、お菓子を手土産に職場訪問を行っています。
キーワードは対話し一人ひとりと繋がることです。そんな地道なとりくみを大切に、具体的なアクションを執行委員会で検討していきます。

埼葛支部　支部長　mさん

埼葛支部では、県本部の「組織建設・財政再建新たな3カ年計画」を受け、6月の定期総会（書面評決）で「2023年度には現在の1割増しの組合員と総合共済の支部・単組を作り出す」ことを決め、毎年10名の組合員を増やすこととした。そこで、支部執行委員会で議論し、支部の宮田書記長の若い先生方との繋がりを生かし、「教員採用試験対策講座」を7月26日に若者4名と八潮・潮止小で開催した。内容は、宮田や2年目本採者からの採用試験の体験談、支部執行委員4人が面接官となっての面接指導と論文の書き方指導だ。8月4日に2回目も若者5名と実施し、19日の県本部の対策講座にも一部参加した。

結局、参加した臨採者全員が採用試験に合格し、その後、潮止小から2名の組合加入に結びついた。まさに、人との繋がりが組合加入となったのである。これまでの埼葛内での加入者5名中4名は、すべて20代・30代である。

また、埼葛支部では、「単組合同」での市教委交渉や学習会を進めている。11月14日に吉川市教委交渉に八潮と合同で実施した。2～3月に吉川・八潮・三郷の3単組合同で「労安学習会」を開催する予定だ。その背景に、「働き方」に疑問を感じて組合加入した三郷の2名の新採者がいた。学習会でさらに「繋がり」を作りたい。埼葛支部では、単組で取り組む「学習会」への財政支援も決めた。